

# 安里川水系河川整備計画

平成 28 年 5 月

沖 縄 県

－ 目 次 －

第1章 流域及び河川の概要 .....	1
第1節 流域の概要.....	1
第2節 河川の概要.....	2
第3節 地形・地質.....	5
第4節 気候・気象.....	6
第5節 自然環境.....	7
第6節 安里川流域の文化財.....	8
第7節 人口と産業.....	10
第2章 河川整備の現状と課題 .....	13
第1節 治水の現状と課題.....	13
第2節 利水の現状と課題.....	14
第3節 河川環境の現状と課題.....	14
第3章 河川整備計画の目標に関する事項 .....	20
第1節 河川整備の基本理念.....	20
第2節 河川整備計画の対象区間.....	20
第3節 河川整備計画の対象期間.....	21
第4節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標.....	21
第5節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標.....	22
第6節 河川環境の整備と保全に関する目標.....	22
第4章 河川の整備の実施に関する事項.....	23
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の 施行により設置される河川管理施設の機能の概要.....	23
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所 .....	29
第3節 その他の河川の整備を総合的に行うために必要な事項.....	30

第1章 流域及び河川の概要

第1節 流域の概要

安里川は、那覇市東部の弁ヶ嶽（標高 166m）に源を發し、南風原町新川地先を南西方向に向かい、那覇市に入って流れを北西方向に変え、真嘉比川等の支川を合わせ、久茂地川を分派し東シナ海に注ぐ、指定延長 7.26km、流域面積 8.60km<sup>2</sup>の二級河川である。

安里川水系の県管理区間は、表 1.1 及び図 1.1 に示すとおり、安里川本川、支川の真嘉比川、安里川より分派する久茂地川、久茂地川より分派する潮渡川の 4 河川がある。

表 1.1 安里川水系内の県管理河川の概要

No.	河川名	対象区間(km)	指定年月日
1	安里川	7.26	昭和 47 年 5 月 6 日 昭和 56 年 8 月 17 日変更
2	真嘉比川	1.40	昭和 56 年 8 月 17 日
3	久茂地川	2.00	昭和 5 年 10 月 28 日 昭和 47 年 5 月 6 日変更
4	潮渡川	1.00	昭和 47 年 5 月 6 日

安里川流域は、県都那覇市及び南風原町に位置し、約 85%を市街地が占める流域である。

下流域には沖縄県庁、那覇市役所等が分布するなど、沖縄県ならびに那覇市の中心として機能している。那覇市では、都市活動、都市生活を支える沖縄都市モノレール（ゆいレール）が平成 15 年度に開業しており、また都市機能の充実を図るため、牧志・安里地区では、牧志・安里地区第一種市街地再開発事業（さいおんスクエア）が平成 23 年度に完成している。

中流域の市街地を流れる川は、コンクリート護岸の連続する水路状の河川であり、また、住宅の裏側を流れているため無機質な、魅力に乏しい河川となっている。

しかし、上流域の弁ヶ嶽や金城ダム周辺の丘陵斜面には、樹林が河川まで迫る良好な自然環境が残るほか、広い水面を有する河口部では、川が市街地の中のオープンスペースとして重要な景観構成要素となるなど、一部では地域のオアシス的な存在ともなっている。



図 1.1 安里川水系内の県管理河川位置図

第2節 河川の概要

(1) 安里川

安里川は、那覇市東部の弁ヶ嶽（標高 166m）に源を発し、南風原町新川地先を南西方向に向かい那覇市に入って流れを北西方向に変え、真嘉比川等の支川を合わせ、久茂地川を分派し東シナ海に注ぐ、二級河川である。県が管理を行う区間は河口から上流 7.26km の区間である。

安里川は、市街地を流れコンクリート護岸の連続する水路状の河川であり、また、住宅の裏側を流れているため無機質な、魅力に乏しい河川となっているが、上流の弁ヶ嶽や平成 12 年度に完成した金城ダム周辺の丘陵斜面には、樹林が河川まで迫る良好な自然環境が残るほか、広い水面を有する河口部では、川が市街地の中のオープンスペースとして重要な景観構成要素となるなど、一部では地域のオアシス的な存在ともなっている。



写真 1.1 金城ダム上流 (7k000 付近)



写真 1.2 金城ダム (5k000 付近)



写真 1.3 大道橋下流 (2k800 付近)



写真 1.4 蔡温橋上流 (1k300 付近)



写真 1.5 安里新橋下流 (0k900 付近)



写真 1.6 中之橋上流 (0k400 付近)



(2) 真嘉比川（1次支川）

真嘉比川は、那覇市古島地先を南西方向に向かいながら安里川に合流する、二級河川である。県が管理を行う区間は、安里川合流点から上流 1.40km の区間である。

真嘉比川は、連続したコンクリート三面張りの単調な河川であるが、平成 13 年度に完成した真嘉比遊水地は、洪水調節機能を持つ他、身近に利用できる多目的空間としても利用されており、また沿川の管理用通路は遊歩道として市民に開放されている。



写真 1.7 真嘉比遊水地 (1k000 付近)



写真 1.8 県道 29 号線上流 (0k300 付近)

(3) 久茂地川（1次派川）

久茂地川は、仲長橋付近で安里川から分派し、牧志と前島の境を西方向に向かい国場川に合流する二級河川である。県が管理を行う区間は、国場川合流点から上流 2.00km の区間である。

久茂地川周辺は、那覇市の中心市街地であり、ビル等が密集するオフィス街となっている。河川に沿って両側に国道 58 号及び市道が走り交通量が多い。また左岸側に沿って沖縄都市モノレール（ゆいレール）が走っており橋脚が立ち並ぶ景観を呈している。



写真 1.9 美栄橋上流 (1k600 付近)



写真 1.10 旭橋下流 (0k300 付近)

(4) 潮渡川（2次派川）

潮渡川は、美栄橋付近で久茂地川から分派し、東シナ海に注ぐ、二級河川である。県が管理を行う区間は、河口から上流 1.00km の区間である。

潮渡川は、一部に石積護岸が見られるが、河川改修が進み両側は連続してコンクリート護岸が整備された水路の様相を呈する単調な河川となっている。



写真 1.11 潮渡橋下流(0k800 付近)



写真 1.12 めおとせ 夫婦瀬公園付近(0k300 付近)

第3節 地形・地質

(1) 地形

流域の地形は、首里、識名など標高 50～120m の台地部、浮島とその周辺の埋め立てにより拡大した海岸低地部、その間に広がる小規模な丘陵地の点在する中間平地部に分けられる。背後地の台地は、沖縄島を東西に分ける尾根をなし、ここを源とする幾つかの河川が那覇市内を西流して東シナ海に注いでいる。



出典：土地分類基本調査（沖縄本島中南部）沖縄県

図 1.2 安里川流域地形図

(2) 地質

流域の地質は、久茂地川を含む河口埋立地付近に沖積層が分布し、真嘉比川流域及び上流域には島尻層群の泥岩を主体とする地層が広がる。また、首里城跡周辺には琉球石灰岩がみられ、数多くの湧水地が分布する。



出典：土地分類基本調査（沖縄本島中南部）沖縄県

図 1.3 安里川流域地質図



第4節 気候・気象

流域の気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、流域内に位置する那覇観測所（気象庁）における年平均気温は約23℃であり、年平均降水量は約2,250mmとなっている。

降水量は主に梅雨期の5～6月と台風襲来期の8月に多く、1ヶ月の降水量が250mmを超える年もある。

また、夏から秋には熱帯性低気圧の通過路となって、毎年数個の台風が襲来する。特に、沖縄近海が台風の進路変更点となっているため、台風通過の際には長時間にわたり強風に曝されることが多い。

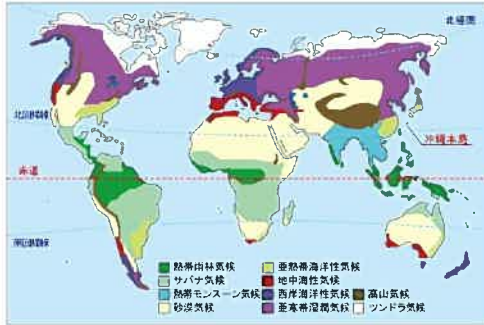


図 1.4 安里川流域気候区分図

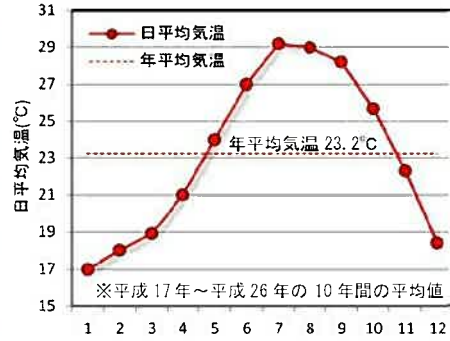


図 1.5 那覇観測所の月別平均気温

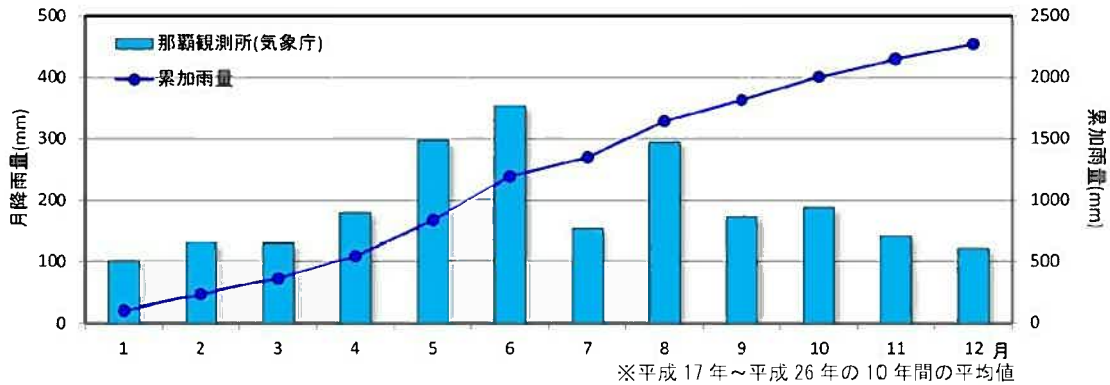


図 1.6 那覇観測所の月別降水量



図 1.7 那覇観測所位置図



### 第5節 自然環境

安里川の上流部は、源流部の丘陵地谷間を蛇行しながら流れ、途中金城ダムを経て、周辺の丘陵地に形成された住宅地の中を流下する。源流の弁ヶ嶽付近の溪流区間や金城ダム周辺丘陵地の樹林地は、良好な自然環境が保たれている。

中流部は、那覇市の市街地を蛇行しながら流れる水路状の河道となっており、また、住宅地の裏側を流れているため無機質な、魅力に乏しい河川となっている。

感潮区間である下流部は、那覇市の中心市街地を流下しており、ビル等が密集する中で貴重なオープンスペースを作り出している。

真嘉比川は、那覇市首里の丘陵地より幾多の落差工を伴って蛇行しながら流れる水路状の河道であり魅力に乏しく、更に住宅地の裏側を流れることから人目に付きにくい。

久茂地川は、那覇市の市街地を安里川より分派して直線的に流下し、河川の全区間が感潮区間となり、流れの変化はみられないが、潮の干満により水位が上下する。

潮渡川は、那覇市の市街地を久茂地川より分派して直線的に流下し河川の全区間が感潮区間となり、流れの変化はみられないが、潮の干満により水位が上下する。



写真 1.13 金城ダム周辺の樹林  
(安里川上流部)



写真 1.14 住宅地の裏側を流れる安里川  
(安里川中流部)



写真 1.15 貴重なオープンスペース  
(安里川下流部)

第6節 安里川流域の文化財

安里川流域内には、琉球王朝時代の文化遺産として国・県・市指定の文化財が多数分布し、特に平成12年12月に世界遺産（文化遺産）に登録された「琉球王国のグスク及び関連遺産群」である「首里城跡」、「園比屋武御嶽石門」、「玉陵」や、その周辺に位置する国指定史跡「円覚寺跡」等は歴史的由緒ある地域となっている。

安里川流域に分布する文化財等は、図1.8のとおりで、首里城公園を中心に数多くの史跡、名勝、天然記念物が分布している。



写真 1.16 首里城跡

（出典：文化遺産オンライン(文化庁)）

首里丘陵の最高部にあり、その創建年代は不明であるが、第1尚氏による三山統一後に王城として確立した。その後、第2尚氏の尚真・尚清によって、王城東南石垣を二重にし、「継世門」を設け、今日の規模ができたものであろう。城は那覇より東行する大道に中山門・守礼門、城門第一門として献会門、外郭には久慶門・継世門をひらき、内郭には瑞泉門・淑順門・白銀門を設け、これらの門を石垣でつらねていた。内郭には木造の諸宮殿を建立する。



写真 1.17 園比屋武御嶽石門

（出典：文化遺産オンライン(文化庁)）

園比屋武御嶽石門はかつては国王が外出のときここで旅路の安泰を祈願したといわれ、元來門としての機能をもつ建物ではなく、沖縄固有の原始宗教である御嶽を拝する場所である。戦前国宝に指定されていたが戦災で大破し、一九五七年旧位置に復旧された。石造平唐門の左右に短い石橋を付けた形式からなり木製の扉を構える。この石門は御嶽信仰の遺構として最も完備した形式を示すとともにその意匠、構造もたくみである。



写真 1.18 玉陵

（出典：文化遺産オンライン(文化庁)）

首里城西方の丘陵上にあり、尚真王が先考尚円の遺骨を見上森より移送するために築造したのに始まり、尚円王統歴代の陵墓となった。現在も外郭にたっている「たまおどんのひのもん」によれば、尚真は、その王統のうち、尚真・尚真妹・尚清およびその兄弟ら9人の子孫は永久に玉陵に葬られる資格ありとし、尚維衡とその子孫のみ除外した。これは尚円―尚真―尚清の王位継承を明らかにしたものである。内郭の自然崖壁を利用して築造した三墓堂は、中央には洗骨前の遺骸をいれ、その左には洗骨後の王・王妃、右にはそれ以外の家族の遺骨を納めた。



写真 1.19 円覚寺跡

（出典：文化遺産オンライン(文化庁)）

首里城の北麓ハンタン山の入口にあり、沖縄第一の巨刹で、臨濟宗総本山、かつ尚王家の宗廟であった。弘治10年(1497)尚真王が京都の臨濟宗僧茶應を開山として創建し、鎌倉円覚寺にならって禅宗七堂伽藍を備え、同時に宗廟「御照堂」を建てたという。山門外に放生池と石橋を築造、また弘治14年に円覚寺前に円鑑池・弁財天堂を造った。



図 1.8 安里川流域文化財位置図

表 1.2 安里川流域の国・県・市指定文化財

指定別	種別	名称	番号	指定別	種別	名称	番号
国	重要文化財 (建築物)	旧円覚寺放生橋	1	市	有形文化財	安谷川御嶽	20
		天女橋	2			内金城御嶽	21
		園比屋武御嶽石門	3			旧御茶屋御殿石造獅子	22
		旧宗元寺第一門及び石牆	4		史跡	宝口樋川	23
	史跡	首里城跡	5			安谷川	24
		円覚寺跡	6			加良川(取付道路も含む)	25
		玉陵	7			さくの川	26
	名勝	伊江殿内庭園	8			渡嘉敷三良の墓	27
						天然記念物	首里金城の大アカギ
有形文化財 (建築物)	龍淵橋	10	仲之川				
	旧首里城守礼門	11	沢岷親方の墓			30	
	旧円覚寺総門	12	寒水川樋川			31	
	ヒジ川橋及び取付道路	13	ヒジ川ピラ			32	
	壺屋の荒焼のぼり窯附石牆	14	崎山御嶽			33	
	龍潭	15	上又東門ガー			34	
	園比屋武御嶽	16	下又東門ガー			35	
	弁ヶ嶽	17	潮汲川			36	
	仲島の大石	18	新垣ヌカー			37	
	首里金城町の石置道	19	雨乞御嶽			38	
名勝	首里金城町石置道	-	王の殿と王川			39	
			天然記念物	仲島の大石	-	与那覇勢頭豊見親逗留旧跡碑	40



第7節 人口と産業

(1) 人口

安里川流域の人口の推移は、流域の大部分を占める那覇市について昭和 50 年から平成 22 年にかけて 30 万人前後で推移しており、平成 22 年では 315,954 人となっている。南風原町の人口は増加傾向にあり、平成 22 年では 35,244 人となっている。

また、安里川流域の世帯数の推移は、流域の大部分を占める那覇市について平成 22 年では 129,512 世帯となっている。南風原町における世帯数の推移も増加傾向にあり、平成 22 年では 11,254 世帯となっている。

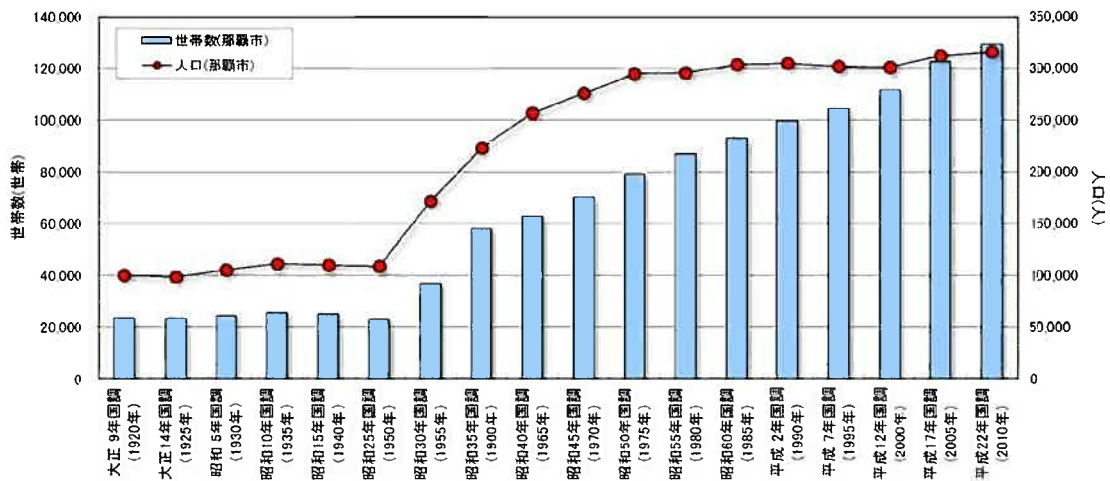


図 1.9 那覇市人口・世帯数経年変化図 (出典：国勢調査)

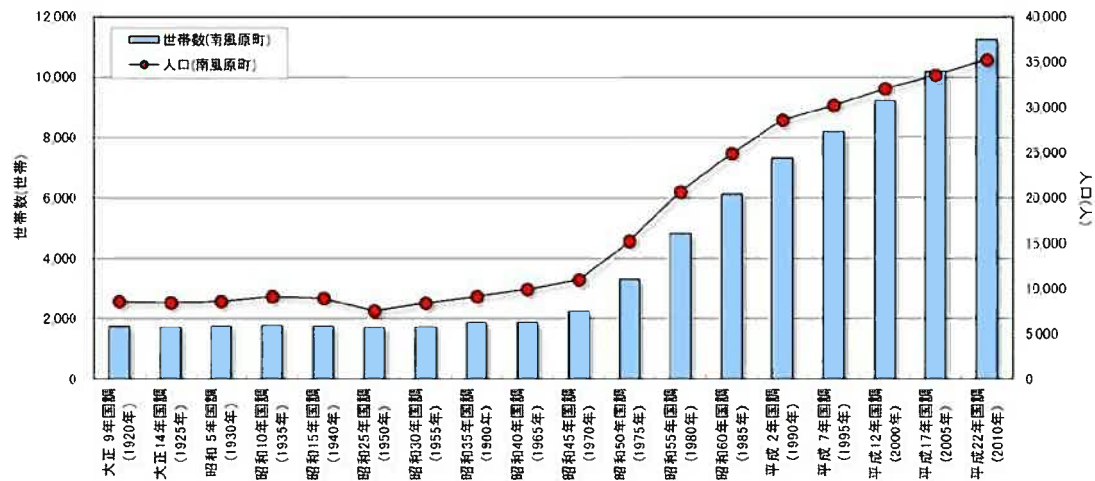


図 1.10 南風原町人口・世帯数経年変化図 (出典：国勢調査)



(2) 産業

安里川流域の大部分を占める那覇市における、産業別比率の推移は、第一次産業・第二次産業の比率は年々減少しており、第三次産業は増加している。平成22年現在の比率は第一次産業が約1%程度、第二次産業は約11%程度、第三次産業が約88%と非常に高くなっている。

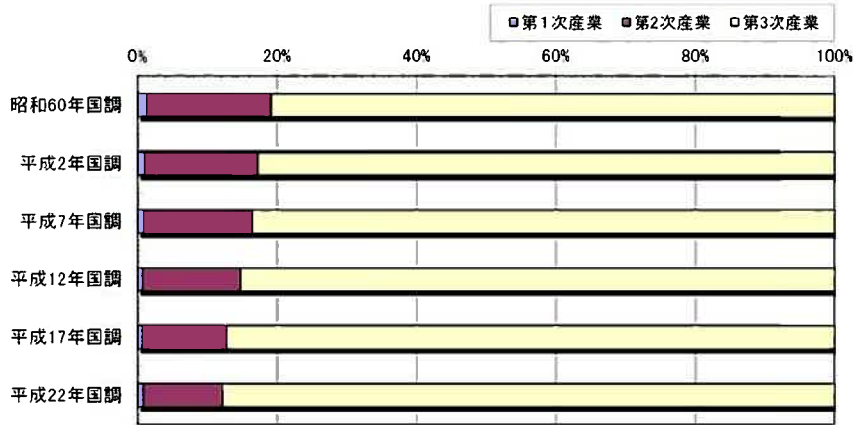


図 1.11 那覇市産業別比率 (出典：国勢調査)

(3) 交通

安里川流域内には、2本の国道（国道58号・国道330号）が南北に縦断し、数多くの県道や市道がそれらをつないでいる。また、上流域にも多くの県道や市道が整備されており、源流部付近には那覇市から名護市まで沖縄本島を縦断する沖縄自動車道の南端となる那覇ICが位置する反面、那覇市街地では交通渋滞の慢性化が問題となっている。

また、沖縄県的主要な交通手段は自家用車・タクシー・バスが中心であり、特に那覇都市圏では渋滞が悪化しているため、その対策として国・沖縄県・那覇市が中心となって建設した沖縄都市モノレール（ゆいレール）が運行している。



図 1.12 安里川流域内交通体系

(4) 河川の利活用

安里川流域内には、<sup>そみげんじ</sup>崇元寺や首里城公園をはじめとする数多くの社寺並びに公園が分布している。金城ダム（平成12年度完成）や真嘉比遊水地（平成13年度完成）には親水空間が整備されており、散策等に利用され地域住民に親しまれている。また、久茂地川では、川の再生をアピールする「久茂地川フェスティバル」をはじめ、イベントの際にはカヌー等の水面利用が見られる。

また、蔡温橋から上流の牧志・安里地区第一種市街地再開発事業（さいおんスクエア）は、再開発に合わせて大きく蛇行していた河川の流れを緩やかにし、断面積を広げ、かつて<sup>つばき</sup>壺屋焼の土や薪を載せた伝馬船が行きかかったという、いにしへの水辺の姿をうつし、安全・安心で、街と一体的に調和する「親水庭園」として整備されている。



写真 1.20 金城ダム周辺



写真 1.21 真嘉比遊水地周辺



写真 1.22 久茂地川カヌー教室



写真 1.23 安里川親水庭園

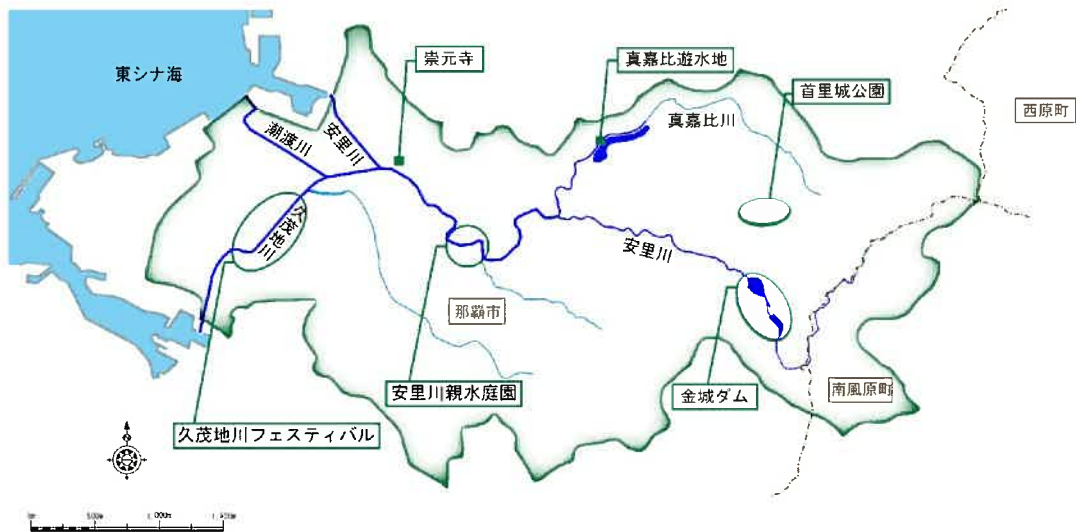


図1.13 観光レクリエーション位置図

第2章 河川整備の現状と課題

第1節 治水の現状と課題

安里川及び支川の真嘉比川は、蛇行が激しく、流域は都市化し、両岸とも護岸際まで民家が建ち並び、河積が狭小なため、台風や梅雨時には豪雨による浸水被害に見舞われており、多大な被害を被っている。

特に、昭和40年8月5日の台風15号の洪水において、安里川水系で床下浸水1,229棟、床上浸水1,758棟、昭和60年8月の豪雨及び台風8・9号の洪水において、安里川水系で床下浸水248戸（安里川173棟、久茂地川75棟）、床上浸水1,313棟（安里川885棟、久茂地川422棟、潮波川6棟）の家屋浸水被害が発生している。

近年においても、平成10年7月の豪雨、平成11年9月の台風18号、平成19年8月の豪雨など床上・床下浸水の被害が発生している。

このような浸水被害を受けて、本格的な治水事業として、洪水を安全に流下させることを目的とし、昭和47年度より安里川の河道掘削及び護岸整備を行うと共に、金城ダム（平成12年度完成）及び真嘉比遊水地（平成13年度完成）の整備を行い、現在に至っている。

■平成19年8月洪水



写真 2.1 国際通り浸水状況

■平成19年8月洪水



写真 2.2 旧琉球バス敷地の浸水状況

表 2.1 安里川水系における主要洪水の被害状況

災害発生日	災害発生場所 (河川名)	災害原因 (台風名等)	災害状況 (破堤/溢水氾濫等)	被害状況 (床下浸水・床上浸水)	降雨記録 (那覇観測所)	
					最大1時間 降水量 (mm)	日雨量 (mm)
昭和40年8月5日	安里川	台風15号	溢水	床下浸水 1,229 棟、床上浸水 1,758 棟	73.7	210.6
昭和60年8月5日～8月14日	安里川	豪雨及び 台風8・9号	溢水	床下浸水 173 棟、床上浸水 885 棟	95.0	224.5
	久茂地川			床下浸水 75 棟、床上浸水 422 棟		
	潮波川			床下浸水 0 棟、床上浸水 6 棟		
昭和61年9月14日～9月28日	安里川	台風16号 及び豪雨	溢水	床下浸水 282 棟、床上浸水 358 棟	94.0	169.5
	真嘉比川			床下浸水 11 棟、床上浸水 10 棟		
平成10年7月16日～7月17日	安里川	豪雨	溢水	床下浸水 50 棟、床上浸水 120 棟	110.5	147.5
	真嘉比川			床下浸水 1 棟、床上浸水 32 棟		
	久茂地川			床下浸水 11 棟、床上浸水 78 棟		
平成11年9月22日～9月23日	安里川	台風18号	溢水	床下浸水 42 棟、床上浸水 231 棟	78.0	411.5
	真嘉比川			床下浸水 10 棟、床上浸水 44 棟		
	久茂地川			床下浸水 5 棟、床上浸水 0 棟		
平成19年8月11日	安里川	豪雨	溢水	床下浸水 5 棟、床上浸水 113 棟	85.0	427.5
	真嘉比川			床下浸水 4 棟、床上浸水 5 棟		

※被害状況（床下浸水・床上浸水）については沖縄県調べ



## 第2節 利水の現状と課題

河川水の水利用については、県農業試験場が金城ダムに 0.0125m<sup>3</sup>/s の水利権を持ち取水を行っていたが、平成 18 年 3 月 31 日に県農業試験場の移転に伴い廃止となり、現在、安里川からの取水は行われていない。なお、安里川水系の流域面積は 13.17km<sup>2</sup> と小さく、また、降水量は季節によって大きく変化するため流況は安定せず、平時の流量は小さい河川となっているが、水利用に関する問題は発生していない。

## 第3節 河川環境の現状と課題

### (1) 河川環境

安里川の上流部の弁ヶ嶽や金城ダム周辺には、アカギ等の樹林が残るなど、溪流の様相を呈し、自然河岸の湿った地中や転石下等に甲殻類のサカモトサワガニ（貴重種）が生息しており、また金城ダム下流では、水際にヤナギバルイラソウ等の湿性植物が生育し、砂礫からなる河床に瀬・淵が形成されている。魚類は流れの緩やかなところを好む回遊魚のアヤヨシノボリやクロヨシノボリが生息し、淵ではギンブナや回遊魚のエゴイの遊泳が見られる。甲殻類は水際植生にミナミテナガエビが、砂礫河床にはサカモトサワガニ（貴重種）が生息している。

中流部の両岸は、護岸が連続する水路状の河道となっており河岸に目立った植生はなく、水際にジュズダマ、シュロガヤツリ等の湿性植物が生育している。魚類は水質悪化に耐性のあるモザンビークティラピアが優占して生息している。流域内に分布する湧水の流入は、生物の生息環境機能の維持に寄与しており、砂礫質の河床には甲殻類のサカモトサワガニ（貴重種）が生息している。

感潮域である下流部の河岸には、コンクリート護岸または石積護岸が連続し、単調な人工的景観となり、目立った植生はない。魚類はコボラ、ボラ等が優占的に確認されている。また、シルト質の河床は魚類のミナミトビハゼ、甲殻類のアミメノコギリガザミ、イソテッポウエビ等の生息場となっている。さらに、石積護岸の隙間は甲殻類のフタバカクガニ、カノコセビロガニ等の生息場となっている。

真嘉比川は、河川間際まで宅地が迫る密集市街地を流れている。現在の河道は、コンクリート三面張で整備された単調な水路であり、幾多の落差工を伴って丘陵地を流下する。宅地化されずに残る斜面には樹林地が残り、人工的景観を和らげている。下流側に洪水調節施設として真嘉比遊水地が整備され、その人工池はコサギ等のサギ類、コチドリ等のシギ・チドリ類の水辺の野鳥をはじめ多くの生物の生息場として機能している。また、魚類は水質悪化に耐性のあるグッピー、モザンビークティラピアが生息する程度である。

久茂地川は、那覇市の市街地を安里川より分派して直線的に流下し、河川の全区間が感潮区間となり、流れの変化はみられないが、潮の干満により水位が上下する。また、水生生物はコボラ、ボラ、スミゾメスズメダイ等が採餌場等の場として利用しており、石積護岸の隙間には甲殻類のハシリイワガニ、フタバカクガニ等が多数生息している。泥底にヒメヤマトオサガニ、アミメノコギリガザミ等の甲殻類が生息している。

潮渡川は、那覇市の市街地を久茂地川より分派して直線的に流下し河川の全区間が感潮区間となり、流れの変化はみられないが、潮の干満により水位が上下する。また、水生生物はコボラ、ボラ、スミゾメスズメダイ等が採餌等の場として利用しており、石積護岸の隙間には甲殻類



のハシリイワガニ、カノコセビロガニ等が多数生息している。

今後、河川事業を進めるにあたっては、治水安全度の向上を前提としたうえで、多自然川づくりによる河川環境の保全と、人々が自然に親しめる川づくりに努めていく必要がある。

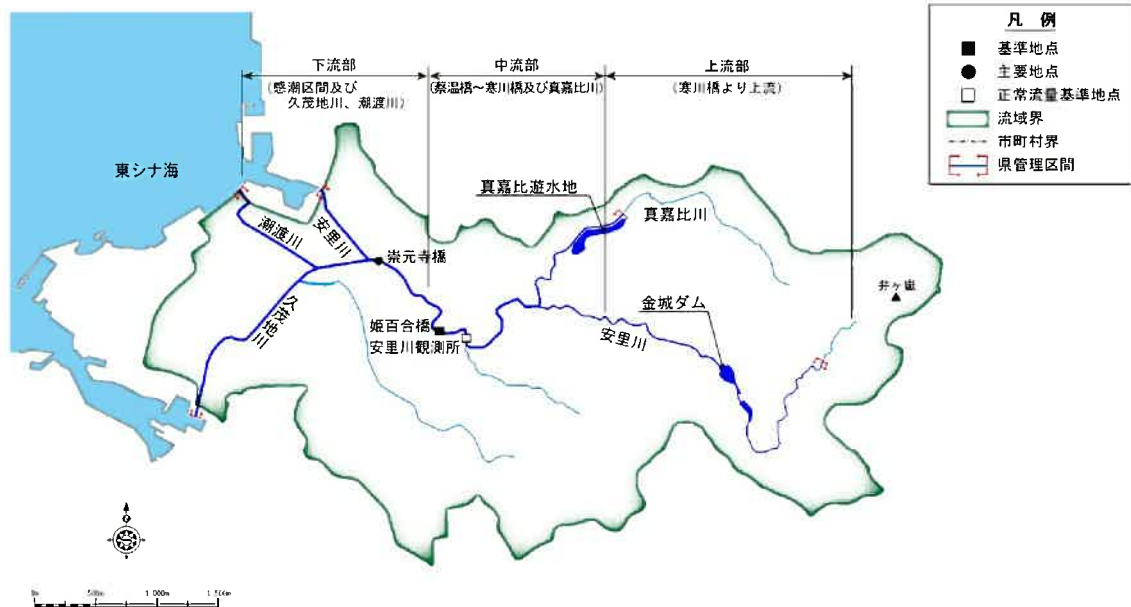


図 2.1 安里川水系の河川区分図（上・中・下流部）

表 2.2 安里川水系で確認された希少動植物

綱	種類	重要種カテゴリ															
		安里川				真嘉比川				久茂地川				瀬渡川			
		(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)
甲殻類	トゲアンビライガニモドキ	-	-	-	VU	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガトサワガニ	-	-	NT	NT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝類	イホアサカリナ	-	-	NT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
植物	ハリツルマサキ	-	-	NT	-	-	-	NT	-	-	-	NT	-	-	-	NT	-
	リュウキュウコタン (別名: ヤエヤマコタン)	-	-	NT	-	-	-	NT	-	-	-	-	-	-	-	-	-

■重要種の選定基準及びカテゴリ

- (1): 天然記念物「文化財保護法」(昭和25年法律214号)
  - 特一特別天然記念物 国一指定天然記念物 県一指定天然記念物
- (2): 種の保存法(「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1993)に基づく国内希少野生動植物)
- (3): 環境省RL 環境省レッドリストの第2次見直しについて 維管束植物(H12.7刊行)、陸産貝類 淡水産貝類(H17.7刊行)、甲殻類等(H18.2刊行)
  - 絶滅(EX): わが国ではすでに絶滅したと考えられる種
  - 野生絶滅(EW): 飼育・栽培下でのみ存続している種
  - 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN): 絶滅の危機に瀕している種
  - 絶滅危惧ⅠA類(CR): ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
  - 絶滅危惧ⅠB類(EN): ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
  - 絶滅危惧Ⅱ類(VU): 絶滅の危険が増大している種
  - 準絶滅危惧(NT): 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ類」に移行する可能性のある種
  - 情報不足(DD): 評価するだけの情報が不足している種
- (4): 沖縄県RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ) -動物編-」(沖縄県、平成17年)
  - 絶滅(EX): 沖縄県ではすでに絶滅したと考えられる種
  - 野生絶滅(EW): 沖縄県では飼育・栽培下でのみ存続している種
  - 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN): 沖縄県では絶滅の危機に瀕している種
  - 絶滅危惧ⅠA類(CR): 沖縄県ではごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
  - 絶滅危惧ⅠB類(EN): 沖縄県ではⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
  - 絶滅危惧Ⅱ類(VU): 沖縄県では絶滅の危険が増大している種
  - 準絶滅危惧(NT): 沖縄県では現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ類」に移行する可能性のある種
  - 情報不足(DD): 沖縄県では評価するだけの情報が不足している種
  - 絶滅のおそれのある地域個体群(LP): 沖縄県では地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

(2) 河川空間

河川の利用については、都市化に伴う河川沿いの開発等により、大部分の区間は近づきにくい状況にあるが、金城ダム周辺や真嘉比遊水地には親水空間が整備されており、散策等に利用され地域住民に親しまれている。また、川の再生を呼びかける「久茂地川フェスティバル」をはじめ、イベントの際にはカヌー等の水面利用が見られる。河口域では、ウォーターフロント整備が進み、県内離島を結ぶ海の玄関口として賑わっている。

(3) 景観

安里川は、那覇市の商業地域を流れ、県内外の多くの人目に触れる河川であり、上流部は丘陵地谷間を蛇行しながら流れ、弁ヶ嶽や金城ダム周辺にはアカギ等の樹林が残るなど、溪流の様相を呈した河川景観に加え、中・下流部は、牧志・安里地区第一種市街地再開発事業により、周辺の景観や地域整備と一体となった河川改修を行っている。

また、那覇市では、「那覇市景観計画」が平成23年5月に策定、「那覇市都市計画マスタープラン」が平成24年3月に一部改訂され、沖縄らしい個性のある護岸形態、親水性護岸、護岸緑化、水生動物、野鳥の生息環境の保全・創出、沿川緑化、緑豊かなオープンスペースとしての一体的な景観づくりなどに取り組んでいる。

これらのことから、今後も河川景観等との調和や既存の景観計画等を踏まえた河川整備を行っていく必要がある。

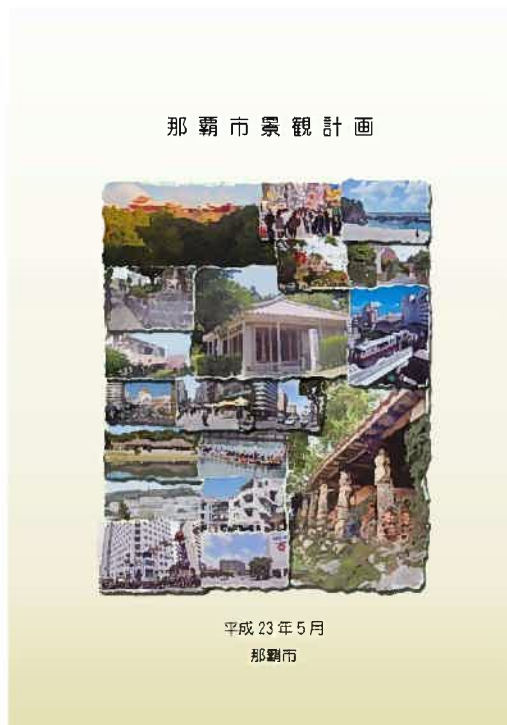


写真 2.3 那覇市景観計画  
(出典：那覇市 HP)

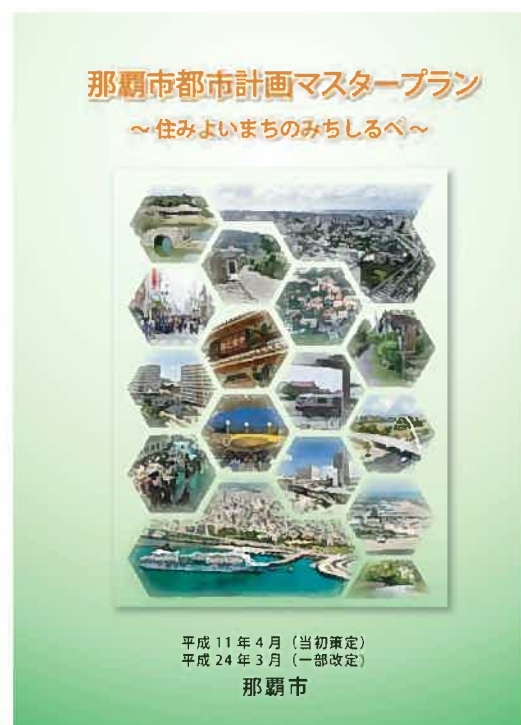


写真 2.4 那覇市都市計画マスタープラン  
(出典：那覇市 HP)

(4) 河川水質

安里川水系の水質については、河川の水質汚濁に係る環境基準は、安里川全域及び支川の久茂地川全域が E 類型 (BOD 値 10mg/ℓ 以下) に指定されていたが、近年の下水道整備等により全川的に水質の改善傾向がみられ、環境基準の類型指定の見直しが行われている。平成 16 年 4 月施行の見直し後の環境基準は、安里川及び真嘉比川全域が D 類型 (BOD 値 8mg/ℓ 以下)、久茂地川全域が C 類型 (BOD 値 5mg/ℓ 以下) となっている。

平成 25 年度の水質 (BOD75%値) 調査によると、環境基準点である安里川の安里新橋で 3.1mg/ℓ、久茂地川の泉崎橋で 1.4mg/ℓ となっており、両地点ともに環境基準値を満足している。

また、支川真嘉比川の宝口樋川下流 10m 地点では、7.1mg/ℓ と環境基準値を満足しているが、年によっては基準値を満たしていないことから更なる水質の改善に努めていく必要がある。

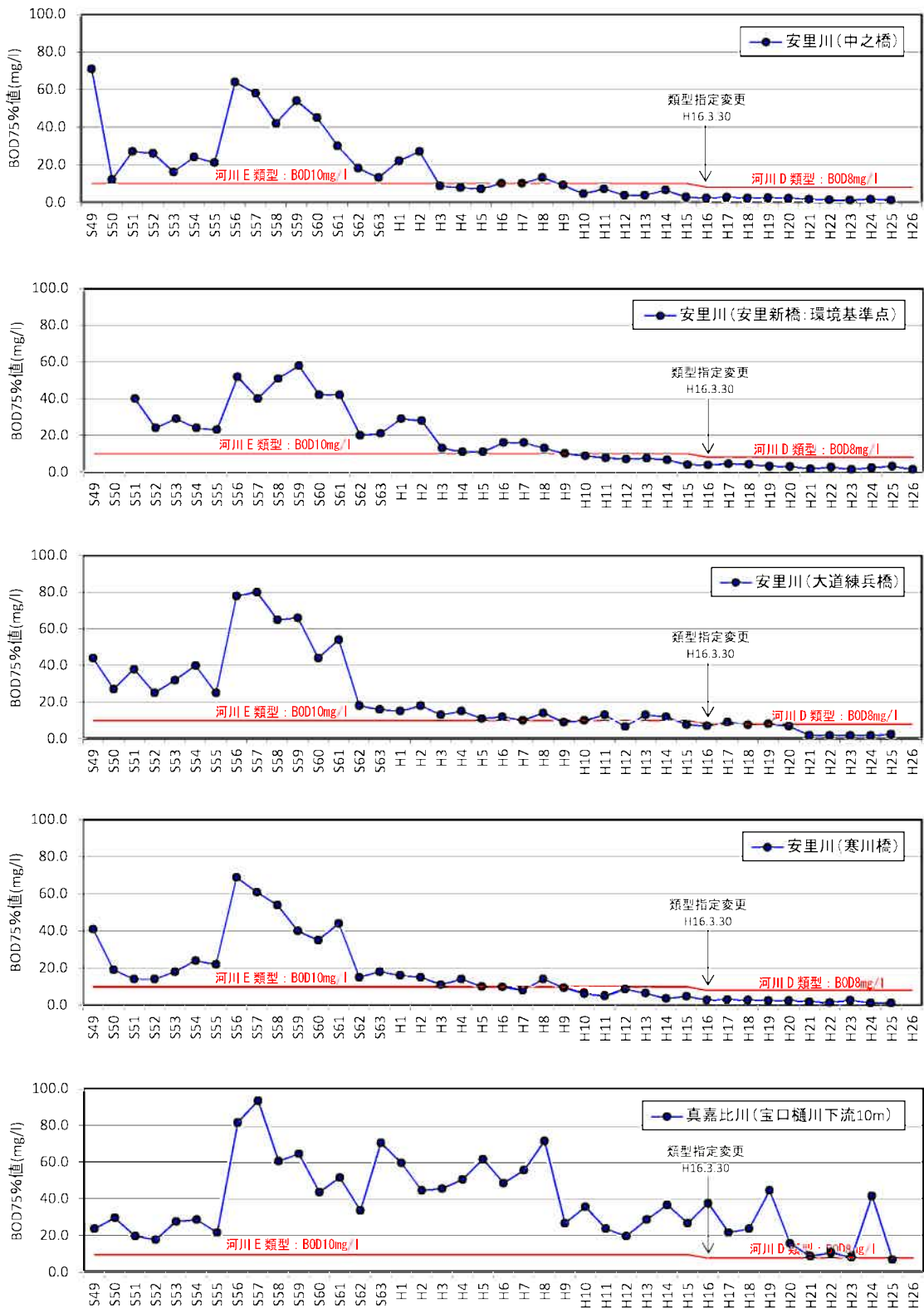
表 2.3 安里川水系の水質環境基準値

No	河川名	地点名	類型 (河川)	基準値 (BOD)	平成 25 年度測定値 (BOD75%値)	備考
1	安里川	中之橋	D	8mg/ℓ	1.1 mg/ℓ	
2		安里新橋 (旧称: 蔡温橋下流 200m 地点)	D	8 mg/ℓ	3.1 mg/ℓ	環境基準点
3		大道練兵橋	D	8 mg/ℓ	2.4 mg/ℓ	
4		寒川橋	D	8 mg/ℓ	1.1 mg/ℓ	
5	真嘉比川	宝口樋川下流 10m 地点 (旧称: 儀保橋)	D	8 mg/ℓ	7.1 mg/ℓ	
6	久茂地川	久茂地橋	C	5 mg/ℓ	1.2 mg/ℓ	
7		泉崎橋	C	5 mg/ℓ	1.4 mg/ℓ	環境基準点

※出典：水質測定結果（公共用水域及び地下水） 沖縄県環境部



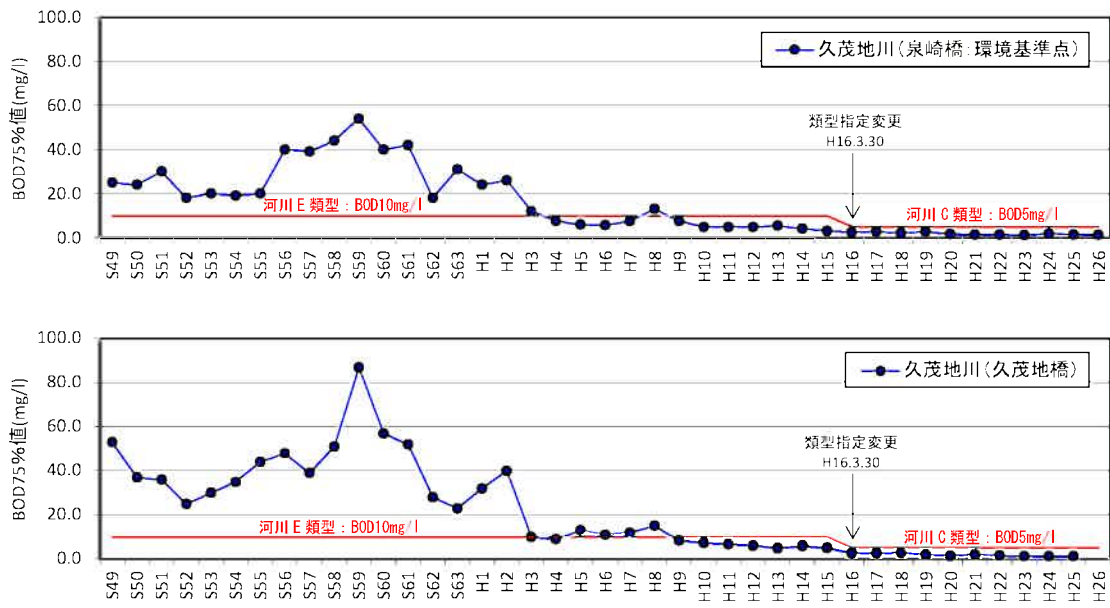
図 2.2 安里川水系水質観測地点



注1) 出典：S49～H26 水質測定結果（公共用水域及び地下水） 沖縄県環境部  
 注2) 安里川の安里新橋と久茂地川の泉崎橋における H26 年の値は速報値  
 注3) 類型指定変更日：平成 16 年 3 月 30 日（H16.4 施行）

図 2.3(1) 安里川水系水質観測地点の BOD 経年変化図





注1) 出典：S49～H26 水質測定結果（公共用水域及び地下水） 沖縄県環境部  
 注2) 安里川の安里新橋と久茂地川の泉崎橋における H26 年の値は速報値  
 注3) 類型指定変更日：平成 16 年 3 月 30 日（H16.4 施行）

図 2.3(2) 安里川水系水質観測地点の BOD 経年変化図

第3章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 河川整備の基本理念

安里川水系の課題としては、河川の流下能力の不足による浸水被害、住宅地内の貴重な水辺を感じる憩いや散策の場の整備・保全等が挙げられる。また、地域住民からは洪水に対する不安の解消や河川環境の整備と保全等の意見が挙がっている。

これらを踏まえ、安里川水系の河川整備は、『安全・安心で、うるおいのある水辺を与える川』を基本理念として、川づくりを進めていくものとする。

第2節 河川整備計画の対象区間

本計画の対象とする区間は、表 3.1 に示す安里川水系の県管理区間とする。

表 3.1 河川整備計画の対象区間

河川名	対 象 区 間		区 間 距 離
	自	至	
安里川	右岸：那覇市首里鳥堀町 5-39-2 地先 左岸：南風原町字新川 593 番地先	右岸：泊高橋 左岸：泊高橋	7.26km
真嘉比川	右岸：那覇市字古島 407 番地先 左岸：那覇市字古島 406 番地の 1 地先	右岸：安里川合流点 左岸：安里川合流点	1.40km
久茂地川	右岸：那覇市前島 1 丁目地先の安里川分派点 左岸：那覇市牧志町 1 丁目地先の安里川分派点	右岸：国場川合流点 左岸：国場川合流点	2.00km
潮渡川	右岸：那覇市前島 1 丁目地先の久茂地川分派点 左岸：那覇市久茂地 2 丁目地先の久茂地川分派点	右岸：海に至る 左岸：海に至る	1.00km



図 3.1 整備計画対象区間概要図

第3節 河川整備計画の対象期間

河川整備計画の対象期間は、計画策定から概ね30年とする。

なお、本計画は、現時点の安里川流域の社会状況・自然状況・河道状況に基づき策定されたものであり、今後の流域状況の変化や新たな知見・技術の進捗等の変化により、適宜見直しを行うものとする。

第4節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

安里川水系においては、想定氾濫区域内の資産規模や過去の災害実績等を考慮し、年超過確率 1/50 の規模の洪水を安全に流下させるとともに台風等による高潮にも対処することを目標とする。

なお、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水に対しては、発生した被害に応じて必要な対策を講じるほか、できるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等、総合的な浸水被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進する。

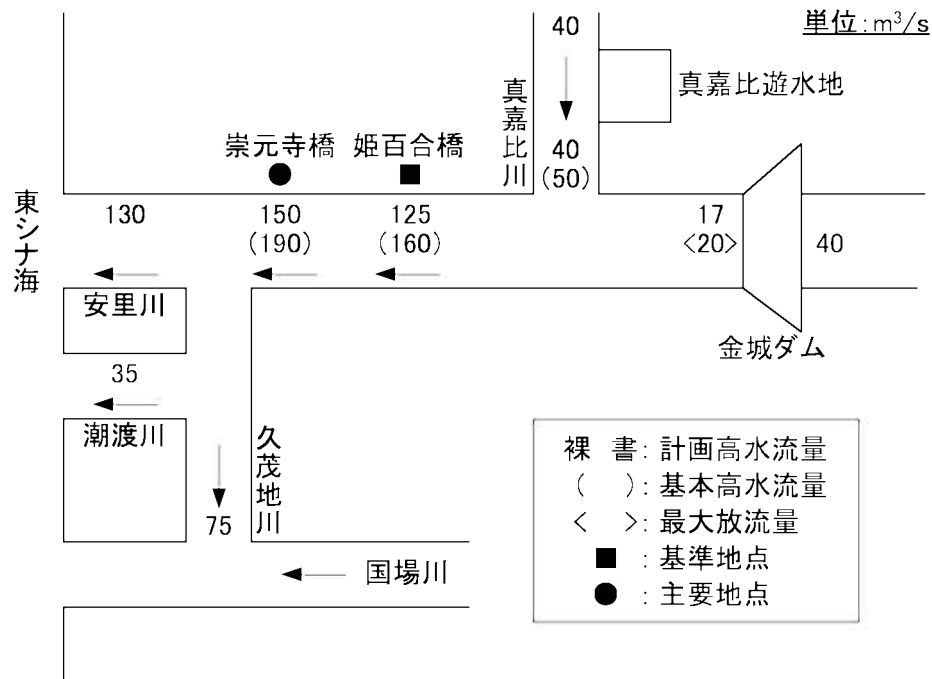


図 3.2 計画高水流量配分図



#### 第5節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、地域住民及び関係機関等との協力のもと、生物の生息・生育環境、水質の確保に配慮し、適正かつ効率的な水利用が図られるように努める。

また、近年は地球温暖化による気候変動等の影響から、少雨と多雨の変動幅が増大し、今後は渇水が発生する可能性が高くなることが懸念されている。今後とも渇水時における情報提供や情報伝達体制の整備を行い、渇水が発生した場合における影響の軽減に努める。なお、安里川観測所地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮して、通年で概ね0.083m<sup>3</sup>/sとする。

河川の水質については、近年、下水道の整備等により全川的に改善傾向がみられ、今後も関係機関及び地域住民と連携しながら、水質の改善・維持に努め、環境基準を達成する適正な水質の確保に努める。

#### 第6節 河川環境の整備と保全に関する目標

河川環境の整備と保全に関しては、河川及び流域の特性を十分踏まえ、治水、利水との整合を図りつつ、自然豊かな環境が保全され、水辺に親しめ、人々に潤いと安らぎを与える河川空間の確保を目標に、河川が本来有している生物の生息・生育環境や人と川との関わりに配慮した整備と保全に努める。

第4章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに

当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

1. 河川工事の目的、種類及び施行の場所

(1) 河川工事の目的・種類

洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項としては、年超過確率 1/50 の規模の洪水から沿川住宅等の浸水被害の防止と台風等による高潮に対処することを目的として、河道拡幅、掘削及び護岸等の整備を行う。

安里川は、現在、河口から姫百合橋付近までは一部区間を残し概成しており、今後、未整備区間として残っている姫百合橋から上流端までの区間については、計画高水流量に対して現況の流下能力が大幅に不足し浸水被害が頻発していることから、治水効果の早期発現が図れるよう、河積の一部を先行的に確保するなど段階的な整備に取り組むほか、真嘉比川に位置する真嘉比遊水地の暫定運用を実施し、浸水被害の軽減に努める。

(2) 施行の場所

河川工事の対象河川と区間及び整備の内容は以下のとおりである。

表 4.1 河川工事の施行の場所

河川名	施行の場所	整備の内容
安里川	右岸：那覇市繁多川四丁目 566 番 2 地先から泊高橋まで 左岸：那覇市繁多川四丁目 551 番 2 地先から泊高橋まで	河道の掘削・拡幅及び護岸等の整備 約 4.57km
真嘉比川	右岸：那覇市松島一丁目 20 番 9 地先から安里川合流点まで 左岸：那覇市宇松川今帰仁原 420 番地先から安里川合流点まで	河道の掘削・拡幅及び護岸等の整備 約 0.65km 真嘉比遊水地暫定運用
久茂地川	右岸：那覇市前島 1 丁目地先の安里川分派点から園場川合流点まで 左岸：那覇市牧志町 1 丁目地先の安里川分派点から園場川合流点まで	河道の掘削及び護岸等の整備 約 2.00km



図 4.1 安里川水系施行位置図

(3) 河川工事にあたっての河川環境への配慮事項

河川環境の整備と保全に関する事項としては、『多自然川づくり』を基本とし、治水上の安全性を確保しつつ、生物の多様な生息・生育環境に配慮した良好な自然環境の保全や、地域住民の川や自然とのふれあいや、潤いと安らぎの場としての機能にも配慮した整備に努める。

なお、河川工事の実施にあたっては、赤土等の流出防止対策を行い、水質汚濁の防止に努める。



2. 河川管理施設の機能の概要

(1) 安里川（上流端～金城ダム）

金城ダムから上流の区間については、治水安全度を確保しつつ、所々丘陵地斜面が川まで迫る自然豊かな溪流となっていることから、今後も良好な自然環境の保全に努める。

(2) 安里川（金城ダム）

平成12年度に完成した金城ダム周辺については、地域住民及び関係機関と連携を図りながら、住宅地に近い高台の貴重な水辺空間として潤いや安らぎを感じる憩いや散策の場の保全に努める。

金城ダムの機能は次のとおりである。

- 位 置：沖縄県那覇市繁多川地先
- 形 式：重力式コンクリートダム
- 堤 高：19.0m
- 堤 頂 長：120.0m
- 総貯水容量：510,000m<sup>3</sup>
- 湛水面積：4.5ha
- 設置目的：洪水調節、流水の正常な機能の維持

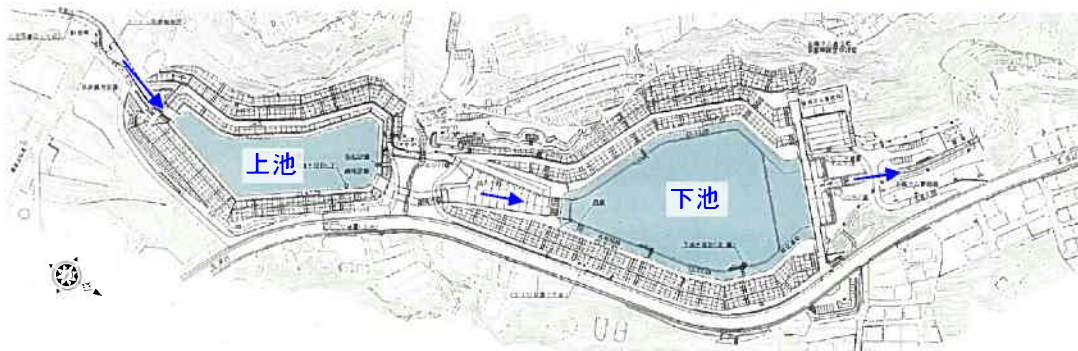


図 4.2 金城ダム貯水池全体平面図

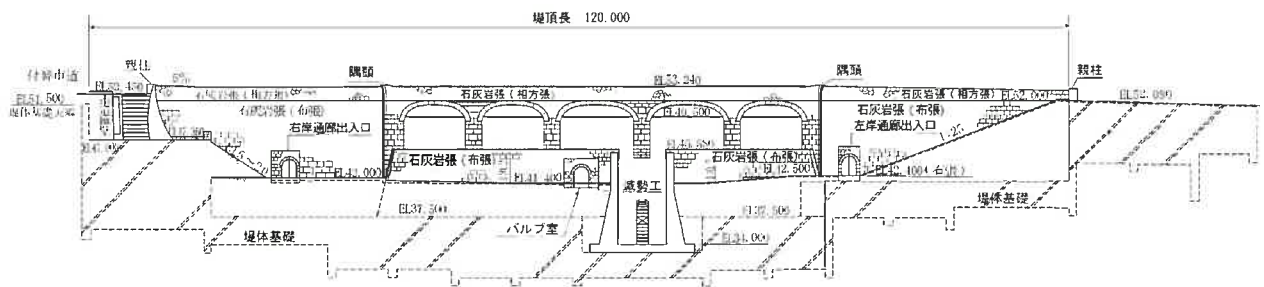


図 4.3 金城ダム堤体下流面図

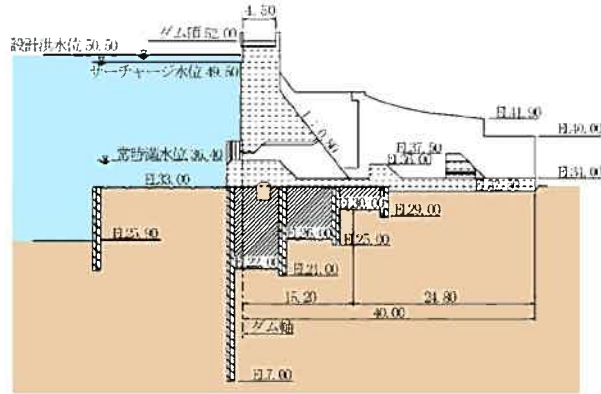


図 4.4 金城ダム標準面図（常用洪水吐き部）

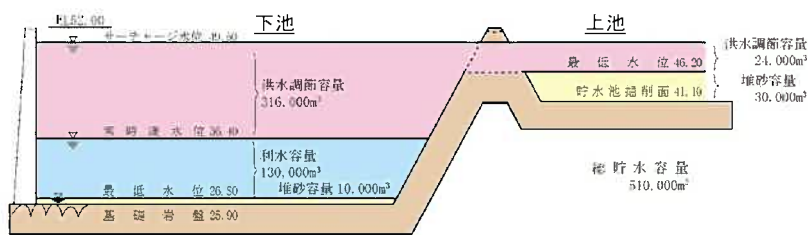


図 4.5 金城ダム貯水池容量配分図

(3) 安里川（金城ダム直下流～真嘉比川合流点区間）

金城ダム直下流から真嘉比川合流点区間は、市街地を流下しており、河床掘削により治水安全度を確保しつつ、生物の生息環境や水際の多様性に配慮した整備を行う。また、河川沿いの緑化や親水性のある河川としての整備を図り、良好な水辺空間の創出に努める。

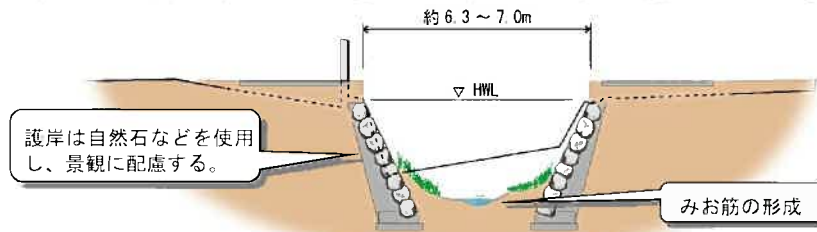


図 4.6 上流部代表断面図

(4) 安里川（真嘉比川合流点～姫百合橋区間）

真嘉比川合流点から姫百合橋区間は学校やマンション、家屋が密集している市街地を流下しており、河床掘削により治水安全度を確保しつつ、生物の生息環境や水際の多様性に配慮した整備を行う。また、河川沿いの緑化や親水性のある河川としての整備を図り、良好な水辺空間の創出に努める。

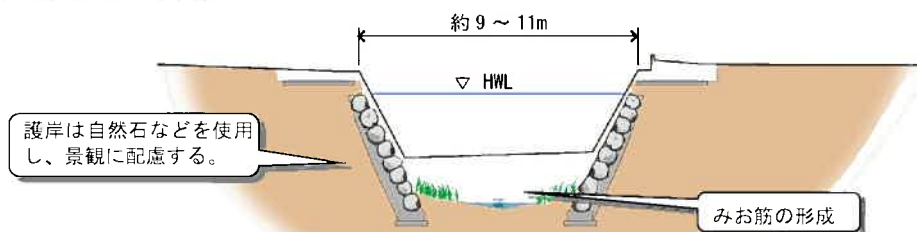


図 4.7 中流部代表断面図

(5) 安里川（姫百合橋～蔡温橋区間）

姫百合橋から蔡温橋区間は、河川整備の進捗に合わせて、都市機能の充実を図るため、牧志・安里地区等で市街地再開発事業が進められ（平成23年7月完成）、親水機能を持つ空間が確保されたことから、潤いのある水辺の保全に努める。



写真 4.1 蔡温橋上流の河道状況

(6) 真嘉比川（真嘉比遊水地）

平成13年度に完成した真嘉比遊水地については、地域住民及び関係機関と連携を図りながら、都市部の貴重なオープンスペースとして安らぎを与える憩いや散策の場の保全に努める。

また、下流河道の治水安全度を考慮した暫定運用を実施し、中・下流域の浸水被害の軽減を図る。

真嘉比遊水地の機能は次のとおりである。

- 位 置：沖縄県那覇市真嘉比地先
- 集水面積：1.80km<sup>2</sup>
- 総貯水容量：69,000m<sup>3</sup>
- 遊水地形式：3池3段方式(直列)
- 越流方式：横越流方式
- 排水方式：自然調節方式
- 設置目的：洪水調節

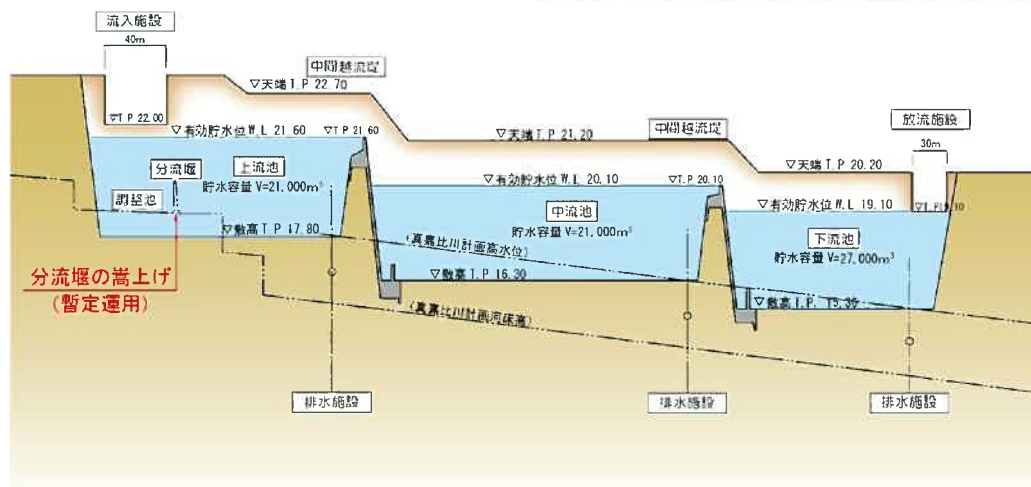


図 4.5 真嘉比遊水地縦断面図



(7) 真嘉比川（真嘉比遊水地直下流～安里川合流点）

真嘉比川は家屋が密集している市街地を流下しており、河床掘削により治水安全度を確保しつつ、生物の生息環境や水際の多様性に配慮した整備を行う。また、河川沿いの緑化や親水性のある河川としての整備を図り、良好な水辺空間の創出に努める。

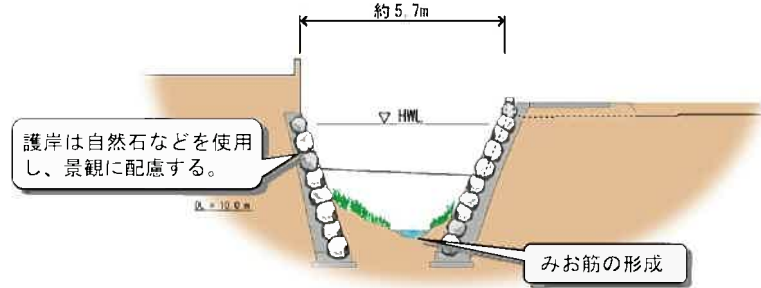


図 4.9 真嘉比川代表断面図

(8) 久茂地川（安里川合流点～河口(国場川合流点)）

久茂地川は建物等が密集するオフィス街を流下しており、河床掘削により治水安全度を確保しつつ、歴史的特性を考慮した河川景観の保全に努める。

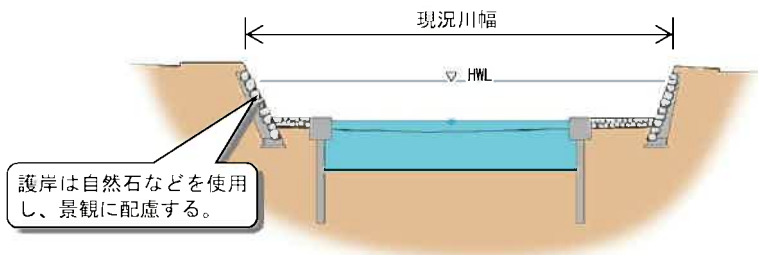


図 4.10 久茂地川代表断面図

## 第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

河川はその状態が水象・気象により大きく変化する自然公物であり、河川全体の管理水準の向上を確実なものとするため普段から継続的に調査・点検を行い、その結果に基づいて維持管理する必要がある。このため、河川の維持管理に関しては、河川の状態の変化に対応できるよう、年間の維持管理スケジュールを定める「維持管理計画」を策定し、その計画に基づき維持管理を行った結果を評価して、次年度の「維持管理計画」に反映する「サイクル型維持管理体制」を構築する。

また、治水、利水、環境の調和がとれ、かつ所期の機能を維持することを目的として、下記の事項を行うものとする。

### 1. 河川管理施設の維持管理

河川管理施設の機能を十分に発揮させることを目的として、施設の変状、破損等の異常の早期発見に努め、異常を発見した時は原因を究明し、速やかに補修して災害発生を未然に防止する。

また、洪水流下の阻害となる河道内の堆積土砂及び植生については、瀬、淵の状態など環境上の影響にも配慮して適正に対処する。

### 2. 河川の巡視

河川区域内における不法投棄、不法占用等を防止するため、関係機関と連携して監視、指導に努める。

さらに、梅雨期や台風期等の雨が多い時期に備えて、河川施設の重点的な巡視を行い、異常個所の早期発見に努める。

### 3. 水量・水質の監視等

安里川水系においては、治水・利水・環境に係る情報として、降水量、河川の水量・水質の把握に努める。

また、河川の水質事故については、河川巡視や地域との連携により早期発見と適切な対処に努める。

第3節 その他の河川の整備を総合的に行うために必要な事項

1. 河川愛護意識の普及および啓発

河川を適正に管理していくためには地域住民との「連携、協働」が不可欠であり、河川愛護月間等における行事、各種イベントを通じて、河川愛護、美化意識の普及、啓発に努める。

また、河川美化、愛護のための組織作りを促進するとともに、河川に関する広報活動を強化し、地域住民の治水、利水、環境に関する意識の向上に努める。



写真 4.2 比謝川の清掃(左)/国場川の清掃(右)



図 4.11 河川愛護月間ポスター (H27 年度)

2. 市民の河川愛護活動の支援

県が管理している河川において、ボランティアで草刈や清掃活動を行う住民団体等を募集し、「河川愛護会制度（河川清掃ボランティア支援制度）」により、住民と行政の協働による「美しい河川環境づくり」を推進する。

3. 水難事故防止のための教育

近年、自然への関心の高まりを受けて、身近で自然豊かな河川を利用してレジャーを楽しむ人々が全国的に増加しており、これに伴い河川における水難事故も多発している。

本来、河川は、公共の利益や他人の活動を妨げない限りにおいて、自由に使用できることが原則であり、釣りや水遊びなど自らの意思に基づき行動する限りその際の安全確保は自己責任において行うべきものである。

しかしながら、全国各地で急な増水等による水難事故が起きていることを踏まえ、国においては、河川利用者が危険回避に役立てられるように「川の防災情報」を提供している。

県としても、水難事故防止のために今後も啓発活動に努める。



図 4.12 「川あそびの5箇条」リーフレット



4. 防災意識の向上

洪水被害を防止・軽減するためには、河川整備に加えて、地域住民一人一人の防災意識を高め、洪水時の迅速かつ的確な水防活動及び警戒・避難を実行するための広報・支援を行う必要がある。

このため、関係機関と協力して平時から、警戒・避難に係わる【川の防災情報】※1 や【沖縄県防災情報ポータル「ハイサイ！防災で〜びる」】※2 等による地域住民の防災意識の啓発・高揚に努める。

【川の防災情報】※1

<HPアドレス><http://www.river.go.jp/>

パソコンの場合

携帯電話の場合

■テレメータ水位

ひめゆり橋(自治体)  
安里川  
01/25 14:10 現在

現在水位 0.11m

水防団待機水位 : -m  
はん濫注意水位 : -m  
氾濫判断水位 : -m  
はん濫危険水位 2.10m

■1時間履歴  
水位m 増減

14:10 0.11 |  
14:00 0.10 |  
13:50 0.08 |  
13:40 0.07 |  
13:30 0.07 |  
13:20 0.08 |  
13:10 0.07 |

■2時間履歴  
水位m 増減

14時 0.10 |  
13時 0.08 |

【沖縄県防災情報ポータル「ハイサイ！防災で〜びる」】※2

<HPアドレス><http://www.bousai.okinawa.jp/>

沖縄県防災情報ポータル「ハイサイ！防災で〜びる」

情報の閲覧方法

上部には、避難に関する情報が記載されています。

⑪ 県内で発令されている避難に関する情報等が表示されます。被害報告がある場合は、被害ありと表示されます。被害状況は、ページ下部に各市町村の状況が表示されます。

⑫ 発令中の避難勧告等の情報が表示されます。

⑬ 避難勧告等の解除情報が表示されます。

⑭ 各市町村で開設している避難所の情報が表示されます。

⑮ 被害状況等の一覧が表示されます。左端には県のみ、右に市町村の状況が表示されます。

⑯ 被害報告のある市町村には、「被害あり」と表示されます。  
※市町村名をクリックすると詳細情報が確認できます。

#### 5. 総合的な被害軽減対策の必要性

近年の降雨傾向や洪水被害の発生状況を見ると、当該水系においても洪水被害がいつ発生してもおかしくない。そのような中で、河川等の整備途上における大雨や、将来計画を上回る大雨が降った場合に、どのようにして地域住民の生命と財産を守るかが重要となる。

このため、自治体等と協力して、河川改修のような従来のハード整備に加えて警戒情報の発信や避難誘導等のソフト対策を充実させ、ハードとソフトの両面から総合的な被害軽減対策に取り組んでいく。

#### 6. 危機管理における連携強化

洪水による被害の発生時には、正確な情報を収集し、迅速に地域住民に提供することで、被害を軽減することが極めて重要である。

このため、関係機関とも連携し、流域内の雨量や河川水位等の河川情報の集約や市町への水防情報の伝達を行う。また、インターネットホームページ（前ページ※1、2）等を通じて住民に対してリアルタイムでの雨量・河川水位等の防災情報の提供に努める。